

### 概況 生産関連の一部を除く主要統計の基調は、総じて下振れ

4月の生産指数を除き、大口電力使用量、細島港の輸出額は前年比で増加した(5月)。多雨や母の日セールなどの低調が響き、大型小売店の総販売額は前年を下回った(5月)。「軽」を含む乗用車販売は(6月)、燃料高による買い替え需要の鈍化も影響して、前年比124台の減少。前年の「宮崎市での分譲マンション85戸」が今年は「ゼロ」になった県内の住宅着工戸数は、ここ10年だけでみても最少(5月・460戸)。公共工事では東九州自動車道のトンネル工事分が寄与するも、総額では56億円余り減少(5月)。有効求人倍率は0.59倍(5月)と依然低水準。老舗大手建設業1社の破綻が、負債総額の8割近くを占めた(6月)。子牛市況にも、飼料価格高騰の悪影響が強かうかがわれる。(枝元)